

生きる

真宗大谷派 存明寺通信

NO.174

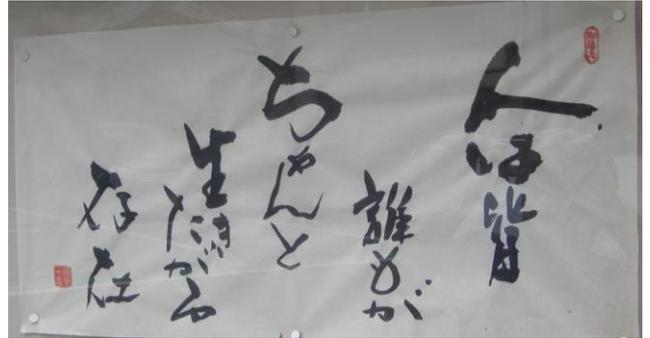
2016年(仏歴2547年)9月22日発行

その青年僧はこう語った。「自分はあるまじちゃんときよとは、してこなかった」、と。やんちゃなことを繰り返して、ワルと呼ばれ、誰もが敬遠する存在だったという。彼はその後、ひとりの師に出会った。師は自分のことを、初めて叱ってくれたという。「そんなことをしていたらダメだ」、と。そして、心に響いたひとことは、次の言葉だったという。

「人は皆誰もが ちゃんと生きたがる存在なんだ」

彼の目には、光るものがあった。きっと、師との出会いを思い起こした「うれし涙」だったのだろう。

たった一言が 人をききつける。
たった一言が 人をあたためる。
言葉の持つ力にこそ、出^であ^いっ^てい^きたい。(義)



↑青年のつどい (8月27日) 参加型コンサート



↑大島花子さんミニライブ (7月23日)

ぞんみょうじ
存明寺HP、随時更新中です！

しんらん であ
親鸞と出会うお寺

存明寺のHP <http://www.zonmyoji.jp>

出会い直す 出会い続ける

釋諦信 しやくたいしん

ドキリとしたこと

今年八十一歳になる母と同居をしています。このところ、母は物忘れが多くなってきました。かかってきた電話の相手が誰だったのか、忘れることもよくあります。

「東本願寺から電話があったわよ」と母。「東本願寺の誰？」と私。「それは忘れた」と母。それじゃ、だめじゃん・・・。

それでもこちらに余裕がある時はいいのですが、忙しい時はついイライラ。実の親子なので遠慮がありません。本気で怒ってしまうこともあります。

そんなある日、弟が泊りがけでやってきました。夜一緒にお酒を飲んでる時に、弟はこう言いました。「兄貴、おふくろが言ってたぞ。兄貴のこと、こわいって」その一言にとてモドキリとしました。そんなふうに母に思わせていたとは。

人は老いるもの。その老いのすがたを母はきちんと私に見せてくれ

ていたのです。

それからは心を入れ替えて、なるべく母との対話を大事にしようと思いました。母の話は最後までちゃんと聞く。もちろん守れないこともありましたが、それでも今までよりは会話が増えたような気がしました。

初めて知った母の戦争体験

ある日、母がもう一度訪れてみたい場所があると言い出しました。それは戦争中の疎開先でした。ちょうどその方面に出張する予定があったので、この初夏に初めて母とのふたり旅が実現しました。

訪問先は富山県高岡市伏木。ここに母の叔母が嫁いだ家があり、戦争中に疎開をしていたのです。

その地で九十歳になるご婦人と、およそ七十年振りの再会もありました。出会えたことを喜び、一緒に遊んだこと、海に泳ぎに行ったことなどを楽しそうに語る母がいました。

その日の夜、戦争中の話をしてくれました。それは今までに聞いたことがなかった話でした。

戦争中に二歳下の弟と二人だけで疎開をしていた母は、物資の乏し

かった時代、楽しい思い出とは別に、つらい思い出もあると語り出しました。

それは、邪魔者扱いされたこと、食事を家族と離れた土間で食べていたことなどです。子供心に悲しくつらかった、と語っていました。

戦争が終わって七十一年目にして初めて聞く母の戦争体験でした。出会っていたつもり母と、実はなかなか出会えていなかったことを痛感した瞬間でした。

それと同時に、出会っているつもりの人と出会い直していくことの大切さも、痛感した瞬間でした。

出会い直すということ

親鸞さまは、青年時代に聞いた法然さまの言葉を、晩年になっても繰り返し繰り返し味わっておられたようです。

末燈鈔第六通は、親鸞さまが八十八歳の時に書かれた最晩年のお手紙です。その時代は、天変地異や飢饉などによって多くの人が亡くなられる厳しい現実がありました。その時親鸞さまは、五〇年以上前にお聞きした法然さまの言葉、すなわち「愚者になりて往生す」(末燈鈔 六〇三頁)という言葉を思い

返し、出会い直すようとしておられます。

そこにおられるのは、「一度聞いたらそれで終わり、さあ次の言葉へ」という親鸞さまではありません。自分が出会えた言葉を自らの歩みの中で抱き続け、大切に憶念する親鸞さまです。

ここに、言葉に出会い直し、言葉に出会い続けていく親鸞さまがおられます。

出会ってきたつもりの人や言葉と出会い直すということ。出会い続けるということ。それは、私たちが大切にすべきことではないでしょうか。

あなたは今、となりにいる人と、きちんと出会えていますか？私を照らす言葉と出会い続けていますか？

ぶどうあひ
ぶどうあひ

グリーンフケア特別企画

大島花子さんミニライブ

7月23日(土)存明寺においてグリーンフケアをテーマとしたイベントが「グリーンフサポートせたがや」の皆さんとの共催で行われました。DVDの上映会、歌手の大島花子さんのミニライブが行われました。遠くは山口や福島など、遠近各地より約一〇〇名の方々がご参加下さいました。

大島花子さんは、歌手の坂本九さんの娘さん。日航機事故で父を失った悲しみは「今も消えない」と語られました。しかし、「その悲しみが時に化学変化を起こし、人と人が

が出会うこともある」と語られたことが、とても印象的でした。
 【当日の曲目】

- ・ 見上げてごらん夜の星を
- ・ 上を向いて歩こう
- ・ イマジン などなど

◆大島花子さんが存明寺に

2017年(平成29年)
5月3日(水) 12時

大島花子さんが再び存明寺に来られます。時は来年2017年の永代経法要です。澄んだ歌声と心に響く語りは、必見です。

この機会を、是非お見逃しなく。

存明寺のなつ企画

青年のつどい

8月最終の土曜日の27日、恒例の「青年のつどい」が存明寺で行なわれ、大人39名子ども8名の合計47名が参加しました。

この企画は存明寺の親鸞聖人御遠忌事業のひとつで、2007年から始まり、今回で17回目の開催となります。10名以上のスタッフが数回にわたって企画会をし、アイデアを出しあいながら当日を迎えました。

参加型コンサートでは、スタッフが曲への思いを語り、タンゴ歌手のKAZUMAさん(スタッフ&大谷派僧侶)が歌います。

またバーベキューは、2年連続で雨のため室内の開催となりましたが、途中にひとことタイムやスイカ・花火タイムを交えながら、あちらこちらで話に花が咲きました。

◆すでに来年の開催が決定。

2017年8月26日(土) 午後
 夏の終わりはお寺でバーベQ!

御礼 唄&ギター KAZUMAさん
 コントラバス 田辺和弘さん
 ピアニカ・編曲 亜也子さん

大島花子さんミニライブ



歌手の大島花子さん



本堂には大勢の人々



ミニトークショー

青年のつどい



参加型コンサート



雨のため室内で乾杯



最後の集合写真

秋のお彼岸法要

9月22日(木) 11時と13時の2座

お話：井ヶ瀬恵子さん・井上憲司さん

岸木勉さん・酒井義一住職

内容：正信偈の唱和・お話

グリーンケアのつどい

大切な方を亡くした人へ 会費：500円

9月24日(土) 2時～5時

12月17日(土) 2時～5時

内容：勤行・法話・語り合い・音楽鑑賞

しんらん交流ひろば★樹心の会

親鸞聖人に人生を学ぶ

10月8日(土) 2時～5時

11月26日(土) 2時～5時

12月10日(土) 2時～5時

お話：藤井俊五さん・酒井義一住職

おみがき奉仕のつどい

10月29日(土) 10時～13時

内容：おみがき・清掃・昼食

※昼食はお寺でご用意いたします。

◎ぞんみようじこども会

◎ぞんみようじこども食堂

◎子育てサロン「いちご」のへや

月一回

月一回

月一回



始まります しんらん交流ひろば

樹心の会 (下半期)

10月8日(土) 2時～5時

11月26日(土) 2時～5時

12月10日(土) 2時～5時

お話：藤井俊五総代

酒井義一住職

日程：勤行・お話・語り合い

全体会・閉会

会場：真宗大谷派 存明寺

会費：500円(茶菓子の点心付き)

※散歩に出かける気軽さでご参加下さい。

【あしがき】

▼彼岸花が咲き、秋がやってきました。やがて、木々の葉は色づき、木の実が熟す季節を迎えます。

▼人間も、芽吹きや成長、試練や苦難の時を経て、その歩みが深まっていくのでしょうか。色づきながら大地に帰る木の葉は、まるで葉としての歩みの集大成であるかのようです。

▼ひとりじゃない。私の歩みはどこまでもひとりの歩みですが、多くの人々の促しや導きこそが、私を押し出してくれていることを感じる秋、いのち深まる時です。(義)

ぜひご参詣ください。

親鸞につどい

報恩講法要

11月2日(水) 14時 報恩講の夕べ

3日(木) 12時 報恩講法要

講師：調和晃磨先生(福岡県)

久留米教区榮久寺ご住職。教師 修練指導・本山教導を歴任。存明寺住職が敬愛する先生です。

会場：真宗大谷派 存明寺

会費：お布施(おこころざし)

日程表

11月2日 報恩講の夕べ

14:00 報恩講の夕べ
15:00 法話(調先生)
17:00 終了

11月3日 報恩講法要

12:00 受付・お齋
13:00 法話(調先生)
14:00 報恩講法要
15:00 終了

東京都世田谷区北鳥山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一

TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail: sakai@zomyoji.jp